

元都留市長 高部通正氏逝去



元都留市長の高部通正氏が六月二十八日午前六時四十分逝去されました。

高部氏は、昭和五年に山梨県立工商学校を卒業後、商工省京都輸出絹織物検査所に勤務、その後、昭和二十六年四月から宝村議会議員、昭和二十九年四月から三十八年四月まで都留市議会議員、昭和四十五年四月から五十二年五月まで都留市教育委員を歴任され、この間、昭和三十六年四月には高部繊維産業株式会社を設立され、昭和五十二年十二月から六十年十二月まで二期八年にわたり、都留市長を務められました。

特に、市立病院の前身としての市立都留診療所の開設、都留文科大学本部棟・自然化学棟・音楽研究棟の建設、グリーンロッジの建設、市営権現原団地・九鬼団地の建設、農村総合整備モデル事業等の基盤整備を推進するとともに、国道一三九号都留バイパスの建設促進に尽力されました。また、昭和五十八年五月にはアメリカ合衆国テネシー州ヘンダーソンビル市と姉妹都市提携の調印にも成功され、数々の功績を挙げられました。その功績が認められ、昭和六十一年十一月に地方自治功労として勲四等瑞宝章を受章されています。このように、都留市発展のために貢献されてまいりましたが、脳梗塞のため八十三歳の生涯を終えられました。

数々のご功勞に対し、心から敬意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

健全育成シリーズ 62

待つゆとり

せまい道路の多い日本の道、車がすれ違う時に、ちょっと手前で待っていてくれればスムーズにすれ違えるのに相手の車がどんどん進んできて、やがてどうにもならなくなりやりすすのに随分手間どってしまつた。という経験をお持ちの運転者の方も多いでしょう。

その原因を考えてみると、一つには、自分の都合ばかり考えていて、相手や自分の置かれている状況を客観的に見る（考える）心のゆとりが無いこと。二つ目には、自分が待つて相手を先に通すという時間的なゆとりの無さが考えられます。その結果がかえって時間的に手間取り、車を傷つけてしまうともなりかねません。いつも心にゆとりを持って生活したいものです。

このことが実は、子育てにも言えるのではないのでしょうか。

心待つゆとりのある親は、子どもをめぐったに叱りません。子どもとは本来たくさん失敗をして成長していくものと考え、子どものする事に寛容的で、できるようにするまで見本を見せたり、一緒にやったりして、一人でできるようにするまで待てます。そんな親に育てられた子は、おほかで心がなごんでいてのびのびとしています。

一方、待てない親は、自分の子を思い通りに育てようとしつづけを急ぎます。急ぐので、子どもを叱ることが多くなります。子どもはもともと親の思い通りには育たないものです。そんな親に育てられた子どもは、おどおどし、人の顔色ばかり見ていて情緒不安定になりやすいです。そして、思春期を迎える頃には、いじめや不登校、家庭内暴力といった問題行動をとらないとも限りません。抑圧された感情は、必ずはけ口を求



めるものだからです。

話は変わりますが、小学校三年生の理科の学習で草花を育て成長を観察する学習があります。マリーゴールドの種を子どもたち一人ひとりが自分の鉢に蒔きました。

双葉がいくつも芽を出してきた子は大喜びで自慢しています。一方なかなか芽の出ない子は心配そうに鉢をみつめています。早い人から二週間おくられてやっと双葉がでた鉢もありました。双葉が誰かに抜かれてしまつて種を蒔きなおしたなんて事件もありました。たくさん芽の出た鉢は一つの株を大きく育てるために間引きもしました。やがて七月ともなると全員の鉢に黄色やオレンジの花がきれいに咲きそろいました。

きっと、双葉を抜いてしまった子どもは反省したと思います。そして、良い花を咲かせるには、毎日の水やりや草とりなどの仕事をきちんとやることで、あとはその花の苗の持っている力を信じて成長を待つだけだということを学習したに違いありません。

目先のことにとらわれない待つゆとりが心のゆとりになるのではないのでしょうか。

待つゆとりは、一方で思いやりとも言えるでしょう。思いやりとは相手の立場に立つて考え、相手の気持ちを汲み取る力ともいえます。思いやりがあれば人をなじりません。

どうか、人々がおほかで思いやりのある人になってほしいとおもいます。それには、お父さんお母さんがゆとりをもって子育てをしてください。そうすることで、子どもにも思いやりの心が育ち、思いやりのある社会になっていくと思います。そうすれば、今新聞紙上ににぎわし社会問題となっているような自分の利益のみを優先させ、弱者を切り捨てていく事件は起こることがなく、住みよい国になるはずです。